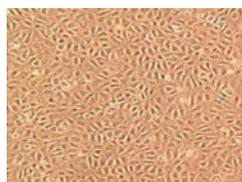


# プリオン病の治療予防開発に関する基礎研究

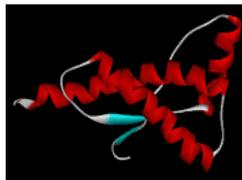
研究分担者： 東北大学大学院医学系研究科 堂浦克美

## 抗プリオン活性をもつ化合物

- ・ 硫酸多糖体
- ・ アミロイド親和性化合物
- ・ 既製薬品



感染細胞



プリオン蛋白



感染動物

作用メカニズムの解析

## 治療予防開発に役立つ5つの発見

### 発見内容の解説

- ・ 硫酸多糖体の抗プリオン活性には荷電量と分子鎖長が重要で、プリオン蛋白のN末端側部分に作用する。
- ・ 高い抗プリオン活性とA $\beta$ アミロイド形成阻害能を併せ持つアミロイド親和性化合物には、共通の化学構造がある。
- ・ 異常型プリオン蛋白の多量体形成を促進するアミロイド親和性化合物が存在する。
- ・ 抗プリオン活性を持つ既製薬品としてクレスチンを発見。抗プリオン活性は高分子タンパク質性成分に存在し、本来のクレスチンの作用成分とは異なる。
- ・ クレスチンは感染動物で有効なものの、抗プリオン活性を中和する抗体が作られる。